

お話し会で「心に残った場面」を 交流しよう～中心人物の気持ちの変化に気を付けて、 いろいろな場面を結び付けて読もう～

発行
令和2年12月7日
中部教育事務所



授業者 伊賀寿子教諭（四万十町立東又小学校）

単元 第3学年 サークスのライオン（東京書籍3下）

単元計画（全9時間）

- 第1次 1時 自分の選んだ本の心に残った場面についてお話し会を開くという単元のゴールを明確にし、初発の感想を書いて、学習への見通しを持つ。
- 第2次 2時 「サーカスのライオン」や、自分が選んだ本の内容の大体を捉える。
- 3時 「サーカスのライオン」の心に残った場面について考え、伝え合う。
- 4,5時 じんぎの気持ちが変化したわけについて、複数の場面と結び付けて考え、話し合う。全文シートの「心に残った場面」に付箋を貼って交流する。（付箋には心に残った理由を書く。）

- 6時 「サーカスのライオン」で、心に残った場面において、中心人物に伝えたいことを考える。
- 第3次 7時 自分が選んだ本の心に残った場面やその理由をまとめ、お話し会の準備をする。
(2～7時) 並行読書教材も活用し、心に残った場面のページには付箋を貼ったり、読んだ後の一言感想を書いたりして、友だちと交流できるようにしておく。
- 本時 8時 並行読書教材より自分が選んだ本の、心に残った場面やその理由について、中心人物の気持ちの変化をもとに複数の場面の叙述と結び付けながら「お話し会」で交流する。
- 9時 単元の学習をまとめ、自分について力を確認するとともに、学習を振り返る。

本時で達成したい目標

- ◇心に残った場面について、中心人物の気持ちの変化に着目し複数の場面を結び付けながら読み、感想を交流して、自分の考えを広げることができる。
- 本時における深い学びとは
◇心に残った場面とその理由について中心人物の気持ちの変化をもとに友だちと交流し、共通点や相違点を見つけてお互いの感じ方のよさについて共有している。

授業の概要

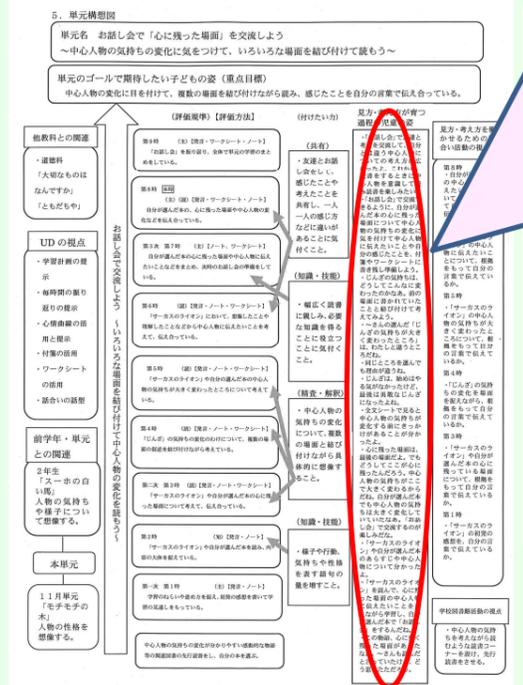
本単元は「お話し会で『心に残った場面』を交流しよう」という言語活動を設定した。第2次では、教材文での読みを並行読書教材での読みを生かしながら、自分の心に残った場面とその理由を中心に、中心人物の気持ちの変化に着目して複数の場面を結び付けて読んでいく。学習を進める中で「全文シート」の活用についても研究を深めていく。

本時の展開

学習活動	指導上の留意点
1 本時の課題をつかむ。 前時までに「サーカスのライオン」で心に残った場面とその理由について交流したことを思い出す。	・「サーカスのライオン」で心に残ったこととその理由を考えたとき、中心人物の気持ちの変化が関係していたことをふりかえることで、「今日は自分の選んだ本で心に残った場面を友だちと伝え合おう」という意欲をもたせる。
2 『お話し会』をひらき、心に残った場面とその理由を中心人物の変化に気を付けながら交流する。 それぞれが選んでいる本を広げ、同じ本を選んだ友だちどうし、違う本を選んだ友だちどうしで心に残った場面とその理由を交流する。	・並行読書教材は、ほとんどの子どもたちが読んで内容を把握しているので、選んだ本の「同じ」「違う」にかかわらず、友だちの感じ方のよさにも着目できるようにする。
3 『お話し会』で話したことを全体で共有する。 お話し会をして、心に残った場面について友だちと同じだったところ、違っていたところについて、気付いたことや感じたこと等意見を出し合う。	・児童から出てきた意見について、友だちと同じと感じたところ、どんな考えで同じなのかを明確に話せるよう支援する。また、複数の場面を結び付けて中心人物の変化を捉えている児童を例に挙げて単元の目標に迫るようにする。
4 学習を振り返る。	・今日の学習をもとに、お話し会をして分かったことをノートに書くことができるよう、振り返りのポイントを示す。

授業研究会のポイント

①付けたい力を明確にした単元構想図



見方・考え方が育つ過程の児童の姿

「お話し会」で友達と考えを交流して、自分とは違う中心人物についての考え方が広がったよ。これから、読書をするときに中心人物を意識して読み読書を楽しみたい。
「お話し会」で交流できるように、自分が選んだ本の心に残った場面について中心人物の気持ちの変化に気を付けて中心人物に伝えたいことや自分の感じたことを、付箋やワークシートに書き残し準備しよう。
・じんぎの気持ちは、どうしてこんなに変わったのかな。前の場面に書かれていたことと結び付けて考えてみよう。
・～さんの選んだ「じんぎの気持ちは大きく変わったところ」は、わたしも同じように思っている。

見方・考え方が育つ過程の児童の姿

資質・能力の育成のためには、単元全体を見通して単元計画を立てることが重要である。今回、東又小学校は、単元全体の中で毎時間の学習をどのように工夫し、付けたい力へ向かうのか明確にするために、左のような単元構想図を提案した。単元の目標を第一に決め、単元ゴールへ向かってどのような言語活動を通して付けたい力を付けるのか、そしてどの学習過程で評価していくのかが一目で分かるようなつくりになっている。特徴的なことは、単元を通して児童の見方・考え方が育つ過程を児童の具体的な言葉で書くことにより、毎時間ごとの発問を工夫したり、焦点化したりして、到達地点をより明確にできるようにしていることである。

さらに今回の授業研究会においては、これまで「単元の目標」を記述していた部分を「単元のゴールで期待したい子どもの姿」として、付けたい力を付けた単元末の子どもの姿を文章化することで、授業者はもとより、参加者と目標達成の姿を共有し、ゴールへ向かうための具体的な手立てを考えることができるようにした。

②全文シートの有効な活用法



全文シート（『じんぎブック』）

今回、東又小学校は全文シートに取り組んだ。物語を俯瞰的に読み、全体を意識しながら読む力をつけるために、物語を1枚につなげた全文シートの活用は、有効な手段である。子どもたちは「サーカスのライオン」の全文シートをつくり『じんぎブック』と名付けて、第2次の6時間目まで授業の中で使用した。全文シートの「自分が心に残った場面」に付箋をつけ、なぜそこが心に残ったのか、心に残ったわけを書き込んだり、それをもとに交流したりして学習を進めてきた。また、心に残った理由をはっきりさせるために、中心人物じんぎの気持ちが大きく変化したところはどこだったのか、それはなぜなのかを、「はじめは～だったけど、…で～になった。」と変化の理由が分かる文型も示し、心に残った場面にかかわる登場人物の気持ちの変化を捉えられるようにした。



（松永先生の助言より）

低学年から全文シートを使うことに慣れさせ、低学年「点」（お気に入りのポイントとその理由等）→中学年「線」（人物像や心情・情景の変化と自分の考え等）、→高学年「面」（人物の変化や関係を踏まえた全体像と読後の考え等）による活用など、学年が上がるにつれて、物語にはいろいろな伏線があることに気付いたり、全文を意識しながら読んだりすることで全文シートのよさ（便利さ）を実感させながら、豊かな言語活動を展開していく必要がある。

③本時の内容

本時は、教科書教材「サーカスのライオン」で心に残った場面とその理由について中心人物の気持ちの変化をもとに場面を結び付けて読むことを、自分の選んだ本に反映させ、心に残った場面とその理由を中心人物の気持ちの変化と関わらせながら共有することに取り組んだ。なぜその場面が心に残ったのか、前の場面との結びつきにふれ、友だちとの意見や感想の違いを明らかにして自分の考えを広げることを目指した。授業後半では、教材文の中心人物と自分の選んだ本の中心人物それぞれの気持ちの変化について、両方とも「他の人物との関わりによって気持ちが変わっている」という共通点を見だし、友だちの気付きを自分の読みにも反映させようとする姿も見られた。

④本時で働く見方・考え方とは

言葉による見方・考え方を働かせるとは、対象と言葉、言葉と言葉の関係を言葉の意味、働き、使い方に着目してその関係性を捉えることである。本時で働く見方・考え方とは、「心に残った場面」という「対象」と、「理由」という「言葉」との関係性を捉えるとき、中心人物の気持ちの変化に着目して複数の場面を結び付けながら友だちに伝えるという考え方である。

心に残った理由の正体をはっきりさせながら友だちと交流し、友だちの感じたことについて理解し、友だちの感じ方のよさについて気付くことができるように、教師は話し合いの中で児童の意見をつなぎ、共有の場面を充実させていくことが必要であると研究協議の中で確認した。